

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3
開講期間 / Class period	2018/09/27 ~ 2019/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20183002086034	科目番号 / Subject code	30020860
科目ナンバリングコード / Numbering Code	PHMC 26121_781		
授業科目名 / Subject	分子構造解析学 / Spectrometric Identification of Organic Compounds		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	田中 隆 / Tanaka Takashi, 山田 耕史 / Yamada Koji, 齋藤 義紀 / Saito Yoshinori		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	田中 隆 / Tanaka Takashi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	田中 隆 / Tanaka Takashi, 山田 耕史 / Yamada Koji, 齋藤 義紀 / Saito Yoshinori		
科目分類 / Class type	講義科目 (選択), 学部モジュール科目 / Lecture		
対象年次 / Year	2	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	[薬学] 本館 2F多目的ホール / Multipurpose Hall		
対象学生 (クラス等) / Target students	薬科学科、薬学科		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	田中 隆: t-tanaka@nagasaki-u.ac.jp; 齋藤義紀: saiyoshi@nagasaki-u.ac.jp; 山田耕史: kyamada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Instructor office	天然物化学、薬用植物学		
担当教員TEL/Tel	2432 (田中 隆), 2433(齋藤義紀), 2462 (山田耕史)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	常時メールにて質問受付 (面談希望の場合もメールで日時を調整)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	医薬品分析、有機合成の生成物の確認、生薬・天然物化学での成分の構造解析など、薬学の有機化学において必須の質量分析、赤外線吸収スペクトル、水素及び炭素核磁気共鳴スペクトルなどによる有機化合物の構造解析法を習得する。【学部モジュール科目】 【薬学教育モデル・コアカリキュラム一般目標】C1 物質の物理的性質: (1) 物質の構造, C2 化学物質の分析: (4) 機器を用いる分析法, C3 化学物質の性質と反応: (4) 化学物質の構造決定		
授業到達目標/Course goals	薬学研究で必須の各種機器分析法の原理、特徴、解析方法を学ぶ。各種スペクトルでどこを見れば何が判るのか、得られた情報をどうやってつなぎ合わせて分子構造を組み立てるのか、実践的なデータ解析力を習得することで、有機化合物の分子構造を総合的に解析できるようになる。関連するDPは薬学科では基礎的な科学力と研究能力、薬科学科では医薬品の基礎知識、研究能力である。薬学教育モデル・コアカリキュラム到達目標を含む項目: C1-(1) 【化学結合】 【原子・分子の挙動】 C2-(4) 【分光分析法】 【核磁気共鳴スペクトル測定法】 【質量分析法】 C3-(4) 【核磁気共鳴 (NMR)】 【赤外吸収 (IR)】 【質量分析】 【総合演習】		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	上記目標に対する達成度を、8回目の授業で行う振り返り演習と定期試験結果 (それぞれ40%)、講義及び演習への取り組み状況 (= 小テストや宿題20%) により総合的に評価する。試験では構造解析の結果と共に、それに至る過程の論理的説明を評価する。8回目の演習と定期試験では教科書ノート持込可とするが、いずれもデータ集としての持ち込みであり、スペクトル解析スキルの蓄積が無ければ解答は不可能であるので、授業時間外に繰り返し問題を解き、スペクトルから部分構造情報を読み取る力をつけること。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	毎回出される小テストや演習問題について、教科書やLACSに提示された資料で確認しておく。また、授業中に指示された宿題やレポート等を作成し指定された時まで提出する。分からないことは次回に質問できるように整理しておく。		
キーワード/Key word	分子構造, スペクトル, 質量分析, 核磁気共鳴		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書: ピギナーズ有機構造解析 (化学同人) 及び 機器分析のてびき (第2版) IR, NMR, MS, UV データ集 (化学同人) を併用する。 参考書: 有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites, etc.	有機化学の基礎を理解していること。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks(URL)	http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/ 台風等不測の事態により全学的休講措置が取られた際は、土曜日に補講を行うことがある。 薬学教育モデル・コアカリキュラム : http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/student/pdf/H25modelcore.pdf
学生へのメッセージ/Message for students	演習を繰り返してスペクトルを読むようになれば、直接目で見ることで見ることができない有機分子の構造を組み立てることができるようになります。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第 1 回	分子量と分子式を知る方法、質量分析スペクトルの原理とスペクトルの見方 (田中) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C1(1) 3; 2,3; C2(4) 1
第 2 回	質量分析スペクトルによる構造解析 (フラグメンテーション、解析の実際) (田中) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C2(4) 1; C3(4) 1~4
第 3 回	赤外吸収(1)スペクトル、紫外可視吸収スペクトル、旋光度と円偏光二色性 (田中) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C1(1) 3; 2,3; C2(4) 1,3,5; C3(4) 1,2
第 4 回	核磁気共鳴の基本事項、 ¹ H - NMR スペクトルの見方 (1) (積分値, 多重度) (齋藤) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C2(4) 1; C3(4) 1,3,4
第 5 回	¹ H - NMR スペクトルの見方 (2) (ケミカルシフト値, スピンカップリング) (齋藤) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C2(4) 1; C3(4) 2,4
第 6 回	核磁気共鳴の原理, ¹ H - NMR スペクトルの見方 (3) (解析の実際) (齋藤) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C2(4) 1; C3(4) 5
第 7 回	¹³ C - NMR スペクトルの見方 (スペクトルの見方, 化学シフト, DEPT法, 解析の実際) (齋藤) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3(4) 1; C3(4) 1【大学独自の内容を含む】
第 8 回	これまでの内容の確認 (MS, IR, UV, NMR スペクトルによる構造解析演習) 薬学教育モデルコアカリキュラム SB0s : C2(4) 1,3,5; 1; 1; C3(4) 1~5; 1,2; 1~4; C3(4) 1
第 9 回	二次元相関 NMR スペクトル (山田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3(4) 1【大学独自の内容を含む】
第10回	二次元相関 NMR スペクトル (山田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3(4) 1【大学独自の内容を含む】
第11回	分子構造解析の総合演習と説明 1 (山田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3(4) 1
第12回	分子構造解析の総合演習と説明 2 (山田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3(4) 1
第13回	分子構造解析の総合演習と説明 3 (山田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3(4) 1
第14回	分子構造解析の総合演習と説明 4 (田中) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3(4) 1
第15回	分子構造解析の総合演習と説明 5 (田中) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3(4) 1
第16回	試験

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 2
開講期間 / Class period	2018/04/01 ~ 2018/09/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20183050125105	科目番号 / Subject code	30501251
科目ナンバリングコード / Numbering Code	PHMC 16101_781		
授業科目名 / Subject	教養有機化学 / Essential Organic Chemistry		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	栗山 正巳 / Kuriyama Masami, 尾野村 治 / Osamu Onomura		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	栗山 正巳 / Kuriyama Masami		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	栗山 正巳 / Kuriyama Masami, 尾野村 治 / Osamu Onomura		
科目分類 / Class type	学部モジュール科目		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	[薬学] 本館2F多目的ホール / Multipurpose Hall		
対象学生 (クラス等) / Target students	薬学科・薬科学科		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	mkuriyam@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Instructor office	薬学部3階 医薬品合成化学		
担当教員TEL/Tel	095-819-2430		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月 - 金 : 13:00 - 18:00 (要予約)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	<p>大学レベルの有機化学を修得する上で基礎となる原子構造、原子軌道、混成軌道に関する概念を学ぶ。これに基づいて、種々の化学結合、分子構造を理解し、それを反応に結びつける。また、分子の立体化学についてもイメージできるようにする。</p> <p>【薬学教育モデル・コアカリキュラム一般目標】C1 物質の物理的性質：(1) 物質の構造、(2) 物質のエネルギーと平衡、(3) 物質の変化 / C3 化学物質の性質と反応：(1) 化学物質の基本的性質、(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応、(3) 官能基の性質と反応</p>		
授業到達目標/Course goals	<p>(1) 電子配置と化学結合の形成、結合開裂と生成の様式、混成軌道と分子の立体構造、分子構造と相対的反応性、不斉と旋光性を概説できる。 (2) 基本的な化合物を命名できる。</p> <p>薬学教育モデル・コアカリキュラム到達目標を含む項目：C1 - (1) 【化学結合】【分子間相互作用】【原子・分子の挙動】、(2) 【エネルギー】【自発的な変化】【化学平衡の原理】、(3) 【反応速度】 / C3 - (1) 【基本事項】【有機化合物の立体構造】、(2) 【アルカン】、(3) 【酸性度・塩基性度】</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Lesson method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等 / Grading	授業中の課題に対する積極的な取り組み状況および授業への貢献度 (30%)、試験 (70%)		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学習の内容 / Preparation & Review	<p>事前学習：教科書を精読して学習内容を把握すると共に不明な箇所を明らかとする 事後学習：教科書と板書内容を丁寧に復習すると共に演習に取り組み理解を深める</p>		
キーワード / Key word	分子構造、化学結合、アルカン、ラジカル、立体化学		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書：現代有機化学(上)、第6版、ボルハルト・ショアー著(化学同人)		
受講要件(履修条件) / Prerequisites, etc.	高校化学を理解していることを前提とする。		
アクセシビリティ / Accessibility (for students with disabilities)	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp</p>		

備考 (URL) /Remarks(URL)	http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/ 台風等不測の事態により全学的休講措置が取られた際は、土曜日に補講を行うことがある。 薬学教育モデル・コアカリキュラム : http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/student/pdf/H25modelcore.pdf
学生へのメッセージ/Message for students	高校化学全般をよく復習しておくこと。単に知識を暗記するのではなく、本質的な理解に努めるようにして下さい。また、演習により学習内容を使いこなせるようになることが必要となります。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	原子構造、電子配置 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1-(1)- -1, C3-(1)- -3
第2回	共鳴構造、原子軌道 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1-(1)- -3, C3-(1)- -4
第3回	分子軌道、混成軌道 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1-(1)- -2
第4回	反応速度論、熱力学 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1-(2)- -6,7, C1-(2)- -1,4,5, C1-(2)- -2, C1-(3)- -1,6
第5回	酸と塩基 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C3-(1)- -5, C3-(3)- -1,2
第6回	官能基、アルカンの種類と命名 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C3-(1)- -1
第7回	アルカンの構造と性質、立体配座 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1-(1)- -1,2,3, C3-(1)- -7,8, C3-(2)- -1,2
第8回	演習 (尾野村)
第9回	アルキルラジカル、超共役、メタンの塩素化 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C3-(1)- -7,8,9, C3-(3)- -1
第10回	メタンのハロゲン化、ラジカル的ハロゲン化の選択性 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C3-(1)- -7,8,9, C3-(3)- -1
第11回	シクロアルカンの命名と性質、環のひずみと構造 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C3-(1)- -1, C3-(2)- -3
第12回	シクロヘキサンの構造と立体配座 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C3-(2)- -4,5
第13回	多環アルカン、光学活性体 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1-(1)- -4, C3-(1)- -1,2
第14回	絶対配置、ジアステレオマー (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C3-(1)- -3,4,5,7
第15回	化学反応における立体化学、エナンチオマーの分離 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C3-(1)- -3,4,5
第16回	定期試験 (尾野村)

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2018/04/01 ~ 2018/09/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20183050125206	科目番号 / Subject code	30501252
科目ナンバリングコード / Numbering Code	PHMC 16301_783		
授業科目名 / Subject	教養生物学 / Essential Life Science		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	武田 弘資 / Takeda Kohsuke, 城谷 圭朗 / Shirodani Keiro, 岩田 修永 / Iwata Nobuhisa		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	武田 弘資 / Takeda Kohsuke		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	武田 弘資 / Takeda Kohsuke, 城谷 圭朗 / Shirodani Keiro, 岩田 修永 / Iwata Nobuhisa		
科目分類 / Class type	学部モジュール科目		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	[薬学] 本館 2F多目的ホール / Multipurpose Hall		
対象学生 (クラス等) / Target students	1年		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	takeda-k@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Instructor office	細胞制御学研究室		
担当教員TEL / Tel	095-819-2417		
担当教員オフィスアワー / Office hours	随時メールにて受付		
授業の概要及び位置づけ / Course overview and relationship to other subjects	<p>生化学I, II, III, 分子生物学、細胞生物学など生物系科目の基礎を養うため、教科書に準拠して、高校レベルの生物学の復習から、生化学、分子生物学、細胞生物学につながる基礎的な内容までを幅広く解説する。</p> <p>【薬学教育モデル・コアカリキュラム一般目標】</p> <p>C4 生体分子・医薬品の化学による理解 (1)医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質 C6 生命現象の基礎 (1)細胞の構造と機能、(2)生命現象を担う分子、(3)生命活動を担うタンパク質、(4)生命情報を担う遺伝子、(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系、(6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達、(7)細胞分裂と死 C7 人体の成り立ちと生体機能の調節 (1)人体の成り立ち、(2)生体機能の調節 C8 生体防御と微生物 (1)身体をまもる D2 環境 (2)生活環境と健康</p>		
授業到達目標 / Course goals	<p>薬学教育において遺伝子や生体成分の役割、さらに細胞の構造や機能を理解することは必須であり、以下の能力を持つことが求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 細胞の構造や機能について、オルガネラレベルで説明できる。 アミノ酸やペプチド、糖質、脂質、タンパク質および酵素の役割について説明できる。 動物のエネルギー代謝や植物の光合成によるエネルギー産生機構について説明できる。 細胞の分裂・情報伝達、受精と成長など生命体の連続性について説明できる。 DNA・遺伝子の構造と機能、遺伝子発現の調節機構について、例を挙げて説明できる。 基本的な遺伝子工学技術について、例を挙げて説明できる。 <p>薬学教育モデル・コアカリキュラム到達目標を含む項目：</p> <p>C4 (1) 【 医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】 C6 (1) 【 細胞膜】 【 細胞小器官】 【 細胞骨格】 (2) 【 脂質】 【 糖質】 【 アミノ酸】 【 タンパク質】 【 ヌクレオチドと核酸】 【 ビタミン】 【 微量元素】 (3) 【 酵素以外のタンパク質】 (4) 【 概論】 【 遺伝情報を担う分子】 【 遺伝子の複製】 【 転写・翻訳の過程と調節】 【 遺伝子の変異・修復】 【 組換えDNA】 (5) 【 概論】 【 ATPの産生と糖質代謝】 (6) 【 概論】 【 細胞間コミュニケーション】 (7) 【 細胞分裂】 【 細胞死】 【 がん細胞】 C7 (1) 【 遺伝】 【 発生】 (2) 【 神経による調節機構】 【 ホルモン・内分泌による調節機構】 【 血圧の調節機構】 【 血糖の調節機構】 【 体液の調節】 【 体温の調節】 【 血液凝固・線溶系】 【 性周期の調節】 C8 (1) 【 生体防御反応】 【 免疫を担当する組織・細胞】 【 分子レベルで見た免疫のしくみ】 D2 (2) 【 地球環境と生態系】 【 水環境】 【 大気環境】</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		

学生の思考を活性化させるための授業手法 /Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers
成績評価の方法・基準等/Grading	上記目標に対する達成度を試験結果（中間試験50%、期末試験50%）により評価する。授業への積極的な取り組み状況（小テストを含む）についても評価に加える。最終試験で60%未満は不合格とする。問題を正しく理解し、答えているか。必要なキーワードを用いているか。思考方法が正しいかで評価する。生物学の基礎の理解が基準となる。
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	事前学習：教科書や事前にLACSにアップした講義資料を用いて予習を行う。事後学習：教科書、講義資料、各自のノート等を用いて授業内容の復習を十分行い、分からない点は早めに担当教員に質問する。適宜参考書を活用することも重要である。
キーワード/Key word	生体成分、エネルギー代謝、光合成、細胞分裂、受精、遺伝子の構造と機能、生態系、遺伝子工学
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書： やさしい基礎生物学第2版（羊土社） 教材： プリント配布（LACSでも閲覧可能） 参考書： コンパス生化学（南江堂）、コンパス分子生物学（南江堂）、デブリン生化学（丸善）、Essential細胞生物学第4版（南江堂）、細胞の分子生物学第6版(Newton Press)、イラストレイテッドハーパー・生化学(丸善)など
受講要件（履修条件）/Prerequisites, etc.	6回以上の欠席は失格とする。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks(URL)	http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/ 台風等不測の事態により全学的休講措置が取られた際は、土曜日に補講を行うことがある。 薬学教育モデル・コアカリキュラム : http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/student/pdf/H25modelcore.pdf
学生へのメッセージ/Message for students	高学年で学習する生物系の科目の基盤になります。高校で生物を履修してこなかった学生は、特に、高学年で学習するより深い生命現象を理解するために、頑張ってください。事前に教科書等で十分に予習し、講義の後は復習をかかさぬこと。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回 4月6日	細胞の構造と生命誕生(1) [武田] C6(1) 1, 1, (3) 1
第2回 4月13日	細胞の構造と生命誕生(2) [武田] C6(1) 1, (6) 1,2
第3回 4月20日	生命を構成する物質 [武田] C4(1) 1,2, C6(2) 1, 1,2, 1, 1, 1, 1, 1, (3) 1
第4回 4月27日	生体とエネルギー [武田] C6(5) 1, 1,2,3,4,5
第5回 5月11日	光合成と窒素同化 [武田] C6(5) 1
第6回 5月18日	細胞の分裂・情報伝達・がん化 [武田] C6(6) 1, (7) 1,2, 1,2
第7回 5月25日	生命体の受精と成長 [武田] C6(7) 1, C7(1) 1,2
第8回 6月1日	中間試験 [武田]
第9回 6月8日	DNA・遺伝子の構造と機能(1) [岩田] C4(1) 1,2, C6(4) 1,2
第10回 6月15日	DNA・遺伝子の構造と機能(2) [岩田] C6(4) 1,2, 1,2,3, 1, 1,2,3,4,5
第11回 6月22日	遺伝の仕組みと遺伝病 [岩田] C6(4) 1, C7(1) 1,2,3
第12回 6月29日	遺伝子工学と法律 [岩田] C6(4) 1,2
第13回 7月6日	多細胞生物の自己維持機構(1) [城谷] C7(2) 1,2,3, 1
第14回 7月13日(3校時)	多細胞生物の自己維持機構(2) [城谷] C7(2) 1, 1, 1,2, 1, 1, 1, C8(1) 1,2,3,4, 1,2,3, 1,2,3,4
第15回 7月13日	生物と環境が作る生態系、生物の進化と多様性 [城谷] D2(2) 1,2,3, 6, 1 7/20は休講(九重合宿のため)
第16回	期末試験 [岩田・城谷]

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3
開講期間 / Class period	2018/09/27 ~ 2019/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20183050125313	科目番号 / Subject code	30501253
科目ナンバリングコード / Numbering Code	PHMC 16201_782		
授業科目名 / Subject	教養物理化学 / Essential Physical Chemistry		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山吉 麻子 / Yamayoshi Asako		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山吉 麻子 / Yamayoshi Asako		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山吉 麻子 / Yamayoshi Asako, 山本 剛史 / Yamamoto Tsuyoshi		
科目分類 / Class type	学部モジュール科目		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	[薬学] 本館2F多目的ホール / Multipurpose Hall		
対象学生 (クラス等) / Target students	薬学科・薬科学科		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	山吉 麻子 / asakoy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Instructor office	薬学部4階 機能性分子化学		
担当教員TEL/Tel	(直通) 095-819-2438		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金12:00-13:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	薬学研究では、薬物と生体のかかわり、新薬の創製、生命現象の解明などが探求されている。このような研究を進展させるには、物質の状態変化を数値化して、分子レベルで分子の性質および化学変化を化学的に検証し、かつ論理的に解釈できることが極めて重要である。本講義では、このような論理的思考力を養うことができる。 【薬学教育モデル・コアカリキュラム一般目標】 C1物質の物理的性質：(2)物質のエネルギーと平衡、C2化学物質の分析：(2)溶液中の化学平衡		
授業到達目標/Course goals	物理の数量的な扱い方を学習し、物質の性質、物質の状態変化などをエネルギーとして捉える考え方を理解できることが目標である。 薬学教育モデル・コアカリキュラム到達目標を含む項目：C1-(2)【気体の微視的状態と巨視的状態】【エネルギー】【自発的な変化】【化学平衡の原理】【相平衡】【溶液の性質】、C2-(2)【酸・塩基平衡】		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	定期テスト70%、授業に対する積極的な態度30%の総合評価とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学習の内容/Preparation & Review	教科書を事前に読んでおくこと。 事後学習では演習問題を必ず解いてみること。		
キーワード/Key word	熱力学、酸・塩基、界面		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書：薬学物理化学(第5版)(廣川書店)、参考書：授業中に紹介		
受講要件(履修条件) / Prerequisites, etc.	特になし		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考(URL) / Remarks(URL)	http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/ 台風等不測の事態により全学的休講措置が取られた際は、土曜日に補講を行うことがある。 薬学教育モデル・コアカリキュラム : http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/student/pdf/H25modelcore.pdf		

学生へのメッセージ/Message for students	欠席しないように心掛けてください。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	物理力と単位[山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 1)
第2回	物質の状態と性質 [山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 2), 3)
第3回	エネルギーの概念 [山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 2), 3), C1(2) 1)
第4回	理想気体の仕事とエネルギー [山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 1), 2), 3), 4), 5)
第5回	内部エネルギー変化と熱力学第一法則 [山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 1), 2), 3), 4), 5)
第6回	エンタルピーとエントロピー(1) [山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 6), 7), C1(2) 1)
第7回	エンタルピーとエントロピー(2) [山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 6), 7), C1(2) 1)
第8回	熱力学第二法則と第三法則 [山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 2), 3)
第9回	自由エネルギーの概念 [山吉] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 4), 5)
第10回	自由エネルギー変化と化学平衡(1) [山本] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 1), 2), 3), 4)
第11回	自由エネルギー変化と化学平衡(2) [山本] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 1), 2), 3)
第12回	電解質のモル伝導率 [山本] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C2(2) 1), 2), 3), 4), C2(2) 1)
第13回	イオンの輸率と移動度 [山本] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 1), 2), 3), 4)
第14回	界面とコロイド(1) [山本] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs : C1(2) 1), 2), 3), 4)
第15回	界面とコロイド(2) [山本]
第16回	定期試験[山吉、山本]

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 2
開講期間 / Class period	2018/04/01 ~ 2018/09/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20183050126223	科目番号 / Subject code	30501262
科目ナンバリングコード / Numbering Code	PHMC 26111_781		
授業科目名 / Subject	有機電子論 / Electronic Theory of Organic Chemistry		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	栗山 正巳 / Kuriyama Masami, 福田 隼 / Hayato Fukuda, 大庭 誠 / Oba Makoto, 上田 篤志 / Ueda Atsushi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	栗山 正巳 / Kuriyama Masami		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	栗山 正巳 / Kuriyama Masami, 福田 隼 / Hayato Fukuda, 大庭 誠 / Oba Makoto, 上田 篤志 / Ueda Atsushi		
科目分類 / Class type	学部モジュール科目		
対象年次 / Year	2	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	[薬学] 本館 2F 多目的ホール / Multipurpose Hall		
対象学生 (クラス等) / Target students	薬学科・薬科学科		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hfukuda@nagasaki-u.ac.jp, aueda@nagasaki-u.ac.jp, mkuriyam@nagasaki-u.ac.jp, moba@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Instructor office	薬品製造化学研究室、薬化学研究室、医薬品合成化学研究室		
担当教員TEL/Tel	福田：095-819-2427 / 上田：2425 / 栗山：2430 / 大庭：2424		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月 - 金 13:00 - 18:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	薬の作用や合成法を分子レベルで理解できるようになるために、有機化合物の物性や反応性、および有機反応の電子の動きを修得する。 【薬学教育モデル・コアカリキュラム一般目標】C3 化学物質の性質と反応：(1)化学物質の基本的性質、(2)有機化合物の基本骨格の構造と反応、(3)官能基の性質と反応 【大学独自の薬学専門教育の内容】ラジカル反応、芳香族求核置換反応		
授業到達目標/Course goals	1) 基本的な化合物をルイス構造式で書くことができる。 2) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。 3) 有機反応における結合の開裂と生成の様式を説明できる。 4) 基本的な有機反応(置換、付加、脱離)の特徴を概説できる。 5) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。 薬学教育モデル・コアカリキュラム到達目標を含む項目： C3 (1)【基本事項】【有機化合物の立体構造】、(2)【アルカン】【アルケン】【アルキン】【芳香族化合物】、(3)【概説】【有機ハロゲン化合物】【アルコール・フェノール・エーテル】【アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】【アミン】【電子効果】【酸性度・塩基性度】		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Grading	授業中の課題に対する積極的な取り組み状況 (30%)、期末試験 (70%)		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学習の内容 / Preparation & Review	授業の進捗状況に応じ、事後学習として課題を課す。各自で練習問題を解き、特に電子の動きに関する規則性を学修する。		
キーワード / Key word	電子、反応、構造、有機化合物		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書：ボルハルト・ショアー・現代有機化学 上下・化学同人 教材：プリント配布 参考書：講義中に随時紹介する		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites, etc.	特になし		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks(URL)	http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/ 台風等不測の事態により全学的休講措置が取られた際は、土曜日に補講を行うことがある。 薬学教育モデル・コアカリキュラム : http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/student/pdf/H25modelcore.pdf
学生へのメッセージ/Message for students	教養有機化学や有機化学Aを事前に復習しておくことが望ましい。また、各授業後に復習をすること
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	ルイス構造式と有機反応(1) : 価電子、形式電荷とルイス構造式 (福田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -3,8,9, C3-(3)- -1
第2回	ルイス構造式と有機反応(2) : 結合の切断と形成 (福田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -7,9
第3回	共鳴法 : 電子の非局在化と共鳴構造式、芳香族化合物 (福田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -4,9
第4回	誘起効果と共鳴効果 : 酸、塩基 (福田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -5,9, C3-(3)- -1, C3-(3)- -1,2
第5回	置換反応(1) : 結合の切断と生成、SN1反応 (上田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -6,9, C3-(2)- -3, C3-(3)- -1,2, C3-(3)- -1,2, C3-(3)- -2
第6回	置換反応(2) : SN2反応、SNi反応 (上田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -6,9, C3-(3)- -1,2, C3-(3)- -1,2, C3-(3)- -1
第7回	脱離反応 : E1反応、E2反応 (上田) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -6,9, C3-(2)- -4,5, C3-(3)- -1,3, C3-(3)- -1,2
第8回	付加反応(1) : 求電子付加反応 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -6,9, C3-(1)- -3,4,5,6, C3-(2)- -1
第9回	付加反応(2) : 求核付加反応 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -6,9, C3-(3)- -1, C3-(3)- -1,2,3
第10回	付加反応(3) : 環状付加反応 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -6,9, C3-(2)- -1
第11回	ラジカル反応 : ラジカルの生成、安定性、反応 (栗山) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -9 / 【大学独自の内容を含む】
第12回	芳香族化合物の反応(1) : 芳香族求電子置換反応 (大庭) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -6,9, C3-(2)- -1,2,3
第13回	芳香族化合物の反応(2) : 芳香族求核置換反応 (大庭) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -9 / 【大学独自の内容を含む】
第14回	酸化反応 : アルコールの酸化、二重結合の酸化、C-C結合の開裂を伴う酸化 (大庭) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -9, C3-(1)- -3,4, C3-(2)- -2, C3-(3)- -1
第15回	還元反応 : 接触水素化反応、アルカリ金属と液体アンモニアによる還元、金属水素化物による還元 (大庭) 薬学教育モデルコアカリキュラムSB0s : C3-(1)- -9, C3-(2)- -2, C3-(3)- -1
第16回	期末試験

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 4
開講期間 / Class period	2018/04/01 ~ 2018/09/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0//2.0
時間割コード / Time schedule code	20183050126624	科目番号 / Subject code	30501266
科目ナンバリングコード / Numbering Code	PHMC 36211_787		
授業科目名 / Subject	健康薬科学概論 / Introduction of Pharmaceutical Health Sciences		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	黒田 直敬 / Naotaka Kuroda, 岸川 直哉 / Kishikawa Naoya		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	黒田 直敬 / Naotaka Kuroda		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	黒田 直敬 / Naotaka Kuroda, 岸川 直哉 / Kishikawa Naoya		
科目分類 / Class type	学部モジュール科目		
対象年次 / Year	2	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	[薬学] 本館 2F 多目的ホール / Multipurpose Hall		
対象学生 (クラス等) / Target students	薬学科・薬科学科		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	n-kuro@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Instructor office	薬品分析化学研究室		
担当教員TEL/Tel	819-2894		
担当教員オフィスアワー/Office hours	12:00 ~ 13:00 (水曜日)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	本講義では、薬学や生命科学における分析化学の意義や重要性を理解するために、分析化学と密接に関連する物理・化学・生物現象やその分析への応用例を学び、分析化学の理解に必要な知識や考え方を身につける。 【薬学教育モデル・コアカリキュラム一般目標】C4 生体分子・医薬品の化学による理解 (3) 医薬品の化学構造と性質・作用; D2環境 (1) 化学物質・放射線の生体への影響、(2) 生活環境と健康; E1薬の作用と体の変化 (1) 薬の作用 【大学独自の薬学専門教育の内容】乱用薬物問題や内分泌かく乱化学物質問題等の社会的背景や現状についても独自に深く言及する。		
授業到達目標/Course goals	・薬学や生命科学における分析化学の意義や重要性を説明できる。 ・主な分析法を挙げ、簡潔に説明できる。 薬学教育モデル・コアカリキュラム到達目標を含む項目: C4-(3) 【医薬品の化学構造に基づく性質】; D2-(1) 【化学物質の毒性】 【化学物質の安全性評価と適正使用】、(2) 【地球環境と生態系】 【環境保全と法的規制】 【水環境】 【大気環境】 【室内環境】、E1-(1) 【薬の作用】		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents of the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Grading	上記目標に対する達成度を、試験結果 (80%)、レポート (10%)、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況 (10%) により総合的に評価する。ただし、最終試験で60%未満は不合格とする。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学習の内容 / Preparation & Review	事前: 授業中に課された SGD 課題に対し、グループ内で議論を進める。 事後: 講義資料を LACS を通じて確認し、重要事項をまとめておく。		
キーワード / Key word	分析化学, 環境分析, 内分泌かく乱, 薬物分析		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	参考書: 衛生薬学 - 健康と環境 - (廣川書店)		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites, etc.	薬品分析化学 の単位を修得していることが望ましい。		
アクセシビリティ / Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		

備考 (URL) /Remarks(URL)	http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/ 台風等不測の事態により全学的休講措置が取られた際は、土曜日に補講を行うことがある。 薬学教育モデル・コアカリキュラム : http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/student/pdf/H25modelcore.pdf
学生へのメッセージ/Message for students	薬学生として常に環境汚染や乱用薬物等に関する興味を持ち、科学的な視点で説明できる知識を身につけてほしい。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	概論及びスモールグループディスカッション [黒田] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: 独自科目
第2回	地球環境と生態系 [岸川] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: D2(1) 4; D2(2) 1~3
第3回	地球規模の環境問題とヒトに与える影響 [岸川] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: D2(1) 1~3; D2(2) 1, 3
第4回	環境汚染とその評価法 [岸川] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: D2(1) 2, 5, 1, 2; D2(2) 3, 5, 1, 3
第5回	環境汚染とその評価法(スモールグループディスカッション) [岸川] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: 独自科目
第6回	内分泌かく乱作用とは [黒田] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: D2(1) 4
第7回	内分泌かく乱物質とその作用 [黒田] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: D2(1) 2, 3
第8回	内分泌かく乱化学物質の測定法(1) [黒田] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: 独自科目
第9回	内分泌かく乱化学物質の測定法(2) [黒田] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: 独自科目
第10回	麻薬・覚せい剤による社会問題 [黒田] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: 独自科目
第11回	乱用薬物とその作用 [黒田] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: D2(1) 5; E1(1)1 1
第12回	乱用薬物の測定法(1) [岸川] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: D2(1) 5, 7, 1
第13回	乱用薬物の測定法(スモールグループディスカッション) [岸川] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: 独自科目
第14回	薬学と分析化学 [岸川] 薬学教育モデルコアカリキュラムSBOs: C4(3) 1; D2(1) 1~4, 6; D2(2) 2
第15回	総括
第15回	定期試験